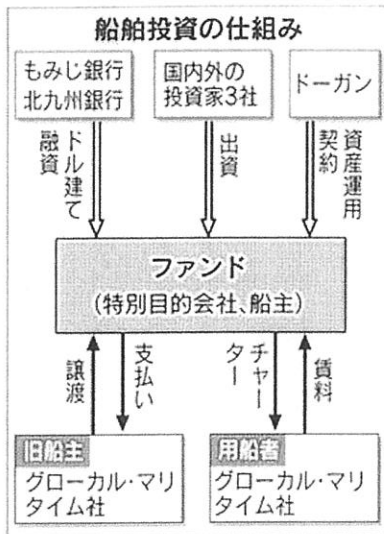


肉牛運搬船投資ファンド

ドーガン

九州地盤のファンド運営会社、ドーガン(福岡市、森大介社長)が船舶投資のためのファンドを設立した。生きた肉牛を運搬する船をこのほど香港の企業から取得。用船契約で賃料を得るほか、船の将来の売却益も見込む。地方銀行で中小企業に出資するファンドが相次いで組成されているため、ニッチ分野も含めて投資先を開拓してファンドの品ぞろえを多様化する方針だ。



中国で需要増 価値上昇見込む ニッチ開拓 収益多角化

ドーガンが購入した全長120メートルの肉牛運搬船。2000頭を積みこむことができる。



ファンド総額は約10億円で国内外の投資家3社が出資し、もみじ銀行と北九州銀行がドル建てで融資。オーストラリアから生きた肉牛を東南アジアや中国へ輸出するため、のバナマ籍の船を香港の Global Maritime

購入した船は1995年の竣工で、2011年に大規模改造を済ませている。全長120メートルで2000頭を積みこむことができる。ドーガンによると、オーストラリアから生牛を輸出するために使える船は規制が厳しく、世界でも同船を含めて30隻前後しかない。一方、中国で肉牛の需要が拡大しており、輸出船の価値が高まることを見込めるとい

る。Global Maritimeにとっても船を流動化することで、手元資金ができ、新しい船の建造などに回すことができる。地方創生に地方銀行が力を入れ始めたことで、九州フィナンシャル

time (グローバル・マリタイム)社から購入した。新たに同社と用船契約を結んで賃料を受け取り、将来的には船の売却益も見込む。

グループが地域企業応援ファンドを立ち上げるなど、ドーガンが主体とする地場企業を支援するファンドが相次いで組成されている。今後は投資先を積極的に開拓して、収益の多角化を図る考えだ。

ドーガンは04年にコア・コンピタンス九州として設立。ベンチャー企業などに出資するほか、

アドバイザリー業務では中小企業の後継者対策やM&A(合併・買収)支援に取り組んでいる。現在は7本のファンド(計130億円程度)で50社超に出資している。